

様式 1

完了報告書（平成 25 年度）

提出者 猪股祐介

提出年月日 2014 年 4 月 5 日

**【プロジェクト名】**

和文 帝国日本の戦時性暴力の歴史社会学：男性性とナショナリズムによる被害者表象の脱構築

英文 Historical Sociology of Sexual Violence in Wartime under Empire of Japan: For Deconstructing Representative Victims Based on Masculinity and Nationalism

**【メンバー構成】**

研究代表者 猪股祐介

幹事 山本めゆ

メンバー 牧野雅子、鄭柚鎮、玉城福子、木下直子

**【研究のねらいと目的】**（600 字程度）

本研究の目的は、アジア・太平洋戦争期の帝国日本の戦時性暴力について、男性性とナショナリズムの共犯により、被害者が構築される過程を分析することによって、加害者の否認と被害者の他者化の構造を明らかにすることである。

帝国日本の戦時性暴力を「強姦の体験」だけでなく、「強姦の予感」「強姦のあと」「強姦の記憶」と被害者構築の歴史において分析することで、男性性とナショナリズムの共犯により被害者の主体性が奪われ、被害者が沈黙を強いられていることを明らかにする。戦時戦後日本については、日本人男性が自国の女性を「守るべき女性」／「犠牲となる女性」に分断し、後者の被害を自然化し、自らの加害性と男性性の喪失を否認することで、日本という共同性が再生産されたことを明らかにする。さらに、この加害性と男性性の喪失の否認によるナショナリズムの再生産を、日本だけでなく旧植民地（韓国）や旧内国植民地（沖縄）についても明らかにする。これにより帝国日本の戦時性暴力について、男性性とナショナリズムの共犯関係に注目することが、東アジアで共有可能な新たな理論枠組を導くことを示す。

このように本研究は、帝国日本の戦時性暴力について、「強姦の体験」から「強姦の記憶」における男性性とナショナリズムの共犯関係を、歴史社会的に分析することで、東アジアで戦時性暴力を思考する新たな理論枠組を模索するものである。それは、加害国／被害国という国民国家の枠を越えた、加害者の責任追及・被害者像の解体の徹底に寄与するであろう。

### 【活動の記録】

- 11月09日 第1回研究会  
報告者：猪股祐介、山本めゆ、牧野雅子、鄭柚鎮、玉城福子、木下直子  
内容：ワーキングペーパー改稿の検討、書籍化に向けた書籍の方向性検討
- 12月08日 第2回研究会  
報告者：猪股祐介、山本めゆ、牧野雅子、鄭柚鎮、玉城福子、木下直子  
内容：書籍化に向けた具体的なスケジュールの検討
- 03月29日 第3回研究会  
報告者：猪股祐介、山本めゆ、玉城福子、木下直子  
内容：改稿された原稿の検討：書籍化に向けた書籍の方向性再検討

### 【成果の概要】（800字程度）

本プロジェクトは、京都大学大学院文学研究科 GCOE プロジェクト次世代研究『帝国日本の戦時性暴力』を改稿し出版に向けた筋道をつけることを目的としていた。出版計画の検討と所収論文の改稿・検討を経て次のような成果を得た。

まず書籍全体のコンセプトをメンバー間で決めた。戦時性暴力の性・ナショナリズム・植民地主義を理論的に検討するとともに、戦時性暴力とその語りを個別歴史的経験において分析することで、国民国家を超えた戦時性暴力の新たな語りをもとに構想するものとした。また配布先としては大学院のゼミ・講義での教科書や社会運動のテキスト等での購入を見込むこととした。これらの出版計画を第1、2回研究会で議論し、京大財団出版助成申請したが、残念ながら採択されなかった。そこで第3回研究会では書籍の性格を教科書から学術書に変えることにした。

ワーキングペーパー収集論文の各論文の改稿については、次のような成果を得た。牧野論文は戦時期国家が「慰安婦」と「貞淑な妻」という女性の二分化を行い、出征兵士の妻に貞操を強要したことを強調するものとなった。猪股論文は満洲移民女性に対する戦時性暴力に関する研究が満洲移民研究で欠落していた意味を問うものとなった。山本論文は引揚時の日本人女性に対する性暴力と妊娠した女性の中絶について、フェミニズムが取りあげてこなかった理由を、ポストコロニアリズム後のフェミニズムの問題と捉えるものとなった。玉城論文は沖縄人「慰安婦」が女性国際戦犯法廷において日本人「慰安婦」とされてきた問題を、フェミニズムにおける日本人が自らの特権に無自覚に沖縄人を表象する問題として捉えるものとなった。木下論文は韓国における「慰安婦」をアメリカで問題化する近年の社会運動を分析するものに方向性が示された。鄭論文は「女性のためのアジア平和国民基金」をめぐる議論について、被害者と被害者を語る者の二項対立と異なる両者の関係性を可変的過程とするものとなった。

### 【研究業績】

- ・猪股祐介. 2013. 「満洲引揚げにおける戦時性暴力：満洲移民女性の語りを中心に」. 蘭

信三編著『帝国以後の人の移動：ポストコロニアリズムとグローバリズムの交錯点』．勉誠出版．

- ・ 牧野雅子. 2014 「戦時体制下における出征兵士の妻に対する姦通取締り」．『ジェンダーと法』．11号（掲載予定）
- ・ 牧野雅子. 2014 「フロンティア 性暴力をなくすために——刑事司法のあり方を考える」『人環フォーラム』.33号: 39.
- ・ 牧野雅子 立命館大学生存学研究センター特別企画 シンポジウム「戦時性暴力と文学」  
会場：立命館大学. 2014年3月28日
- ・ 玉城福子. 韓琉フォーラム「東アジア平和空間の創出」にて  
「日本軍『慰安婦』問題を考える」報告. 2014年2月11日
- ・ 鄭柚鎮. 2014. 「『慰安婦』問題とポストコロニアル状況—「女性のためのアジア平和国民基金」をめぐる論争を中心に—」．『人権問題研究』（掲載予定）

#### 【通信欄】